



高松城復元かわら版

平成29年1月発行

● 毛利邸見学記



平成28年7月9日に山口県防府市に所在する毛利邸を、地元のガイドさんの案内により見学しました。当日の朝は雨模様でしたが、毛利邸に着く頃には晴天に恵まれました。

毛利邸は毛利宗家の本邸であり、邸宅と庭園及び毛利博物館から成り、大正元年に着工し大正5年に完成しました。完成直後に大正天皇を始め、何度か天皇・皇后が宿泊されました。現在では、邸宅・庭園を合わせて国指定の名勝となっています。また、



毛利博物館には国宝や重要文化財などを所蔵・展示していました。今年は建造されて100年目を迎え、様々なイベントが行われているようです。

一方、披雲閣は高松松平家の別邸として、大正3年に着工し、大正6年に完成し、その後、香川県の迎賓館として皇族方が宿泊され、近世以来の正統的書院造りとして建物は国の重要文化財に、庭園は国の名勝に指定されています。来年は建造されて100年目を迎えます。

毛利邸も披雲閣も旧大名家の本邸・別邸として、伝統技術と洋風技術が融合された正統書院造りとし、大正5年～6年にかけて完成しました。又、賓客をもてなす迎賓館としての役割を持ち合わせています。沿革的にも似通った部分が多くあり、高松城にかかわる者として有意義な見学ができたと思います。

本会を介し、同行の34人と親睦・交流をもてた事を大変嬉しく思います。これを機に、玉藻城復元に向けて微力ながら活動していきたいと思います。

(山地 宏和)

● 古川康造理事長の新年ご挨拶

温暖で穏やかな新年を迎えましたこと心よりお慶び申し上げます。会員皆様におかれましては、日頃より多岐に渡り当会の活動に対しご参画頂き厚く御礼申し上げます。

昨年は天守復元を目指した署名活動もスタートし、例年以上に市民はもとより、対外に向けた取組みも広まっております。国からの地方創生の追い風もあり、長年膠着状態であった天守復元への道も新たなステップに移りました。今年は当会が原動力となり、市民の声なき声を形に変え、勢いをつけて乗り越えねばならない正に正念場の年であります。何卒、これまで以上に会員皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



● 10万人署名活動スタート

天守復元に対する市民の声が聞こえない…。今まで何度となく所管行政庁で出来ない理由のひとつとして指摘され続けている高松城天守復元へのネガティブな意見。市民の声さえ高まれば出来るというものでもないのだが、自分たちは反対ではないのだけれどと体よくあしらう為に市民の声不足を使われてしまいます。

何年も繰り返されてきた堂々巡りの局面を打開するため、会の発足当時より遅かれ早かれ署名活動の必要性は検討されて来ました。時は満ち、本年5月の総会で2年間で10万人を目標に署名活動を行うことが決議されました。そのスタートとして華々しくキックオフのイベントを行い、各方面のメディアに取り上げて頂くことで広く市民にこの署名活動をPRし、復元へと向けた機運を高めることに致しました。

8月28日日曜日、高松丸亀町商店街振興組合のご協力も得て、3町ドーム下にて当会員総がかりでキックオフイベントの設営を行いました。

年金コーラス部の皆さまによるオープニングのデモンストラーションの後、古川理事長、平井代議士、岡下高松市議会議長の挨拶と続き、徳島より高松城の応援歌をお作りになられた東根さんの唄のご披露がされ、華々しく署名活動のスタートを飾ることができました。

午前11時から午後2時までの3時間の間に、高松市観光ボランティアガイド協会の皆さまのご協力もあり、数多くの通行者より快く賛同を頂き、当日目標を大幅に上回る400名超の署名を集め、幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

当会では発足以来、お城にまつわる講演会等一般への周知を図って参りましたが、不特定多数の市民に直接働きかけるのは本事業が始めての試みとなりました。「それでいつ天守はできるの？」と期待を込めた一般市民の声を頂き、天守復元に向けて市民の声を身に染みて体感。この声を集約して実現へと繋げるという当会でなければ出来ない責務を強く再認識致しました。

高松市民42万人に比し、目標は10万人と大きなゴール設定ではありますが、無事に走り出したので後はやり切るのみです。

今回の事業実施に向け、頻繁に役員を中心として打合せ会を開き議論をしたことで会の結束も今まで以上に盤石となっております。今後は、各ルートを駆使し市内諸団体に組織的な働きかけを図っていきます。

会員一人当たり千人で成せるゴールです。会員皆さまには、行く先々にて署名にご協力をお願いして下さい。今こそ築城の一時が来たことを訴えましょう！



昨年12月末現在にて
既に約2万人の署名が集まっています

●なんと懸賞金3千万円

高松市は、高松城天守の復元について詳しい写真や建物の内部構造がわかる資料等が不足していることを文化庁から指摘されていることから、懸賞金事業を立案し7月15日から募集を始めました。有力な資料提供者への懸賞金は、丸亀市や松江市なども既に導入しており、補完資料を探すだけでなく、市民へのお城への理解を深める効果も期待されています。

●バーチャル高松城築城

高松市はアプリ「バーチャル高松城」を公開し、天守の在りし日の姿を、スマートフォンやタブレット端末の画面に見ることができる事業を展開しています。端末の貸出しは無料で、玉藻公園管理事務所にて行っています。

(高松市製作 VR 高松城→)



● 講演会に参加して

「大洲城の復元工事から高松城の復元を考える」講演会に参加をさせていただき、貴重なお話を聞く機会をいただきました。実際に現場に立ち現場管理をされた技術者のお話はとても興味深く拝聴いたしました。平成の世の中で昔からの伝統工法を用いた建造物を造る難しさ、工法に対応できるだけの施行技能者がどれくらいいらっしゃるのだろうか、と素朴に疑問を感じながらお話をお聞きました。技術だけでなく、天守の復元には 現行の法律に適合する方策が必要であること、そのためには市民が知り得る過去の資料などを確保しハードルをクリアしていかなければならないことをお聞きました。ハードルは法律だけでなく、財源の確保に始まり多様な課題が待ち受けていることもお聞きし 市民の理解や復元に向けての盛り上がりが必要なのだと感ずることができました。

数年前に姫路城が改修していると聞き出かけたこと、今年の夏にはたまたま出かけた名古屋でも改修中の名古屋城を見学する機会に恵まれました。決してお城マニアでもなく復元マニアでもない私でも大規模な工事、マンパワーの



必要性を感じたことを覚えています。

講演会のあと、車のラジオから玉藻公園に今、まつぼっくりツリーが飾られていることについての情報が流れていました。玉藻公園にある松の木から風で落ちた まつぼっくりを職員の方たちが一つ一つ拾って、巨大なまつぼっくりツリーができています 毎年ツリーの高さは高くなり、目標は数年後の26.6メートル、これは高松城の天守閣の高さと同じと聞きました。目標が達成した時に高松城の復元が決定されていることを願っていると聞き、講演会のあとに感じた気持ちが再び呼び戻されたように感じています。

サンポート高松に到着する船の中から高松城が見えたり、高松駅に降り立った観光客を高松城が迎えてくれる景色を想像しながら、現実のものになるよう、私も市民の一人として興味を持ち、高松城復元に向けた運動を応援していきたい、と感ずることのできた貴重な機会でした。(葛西小百合)



● 商店街に大型懸垂バナー

天守閣復元の署名活動のキックオフイベントに時をあわせ、高松で最も人の行きかう高松三越側の商店街3町ドーム下にて、署名活動を市民にPRする大型の懸垂幕が高松丸亀町商店街振興組合様のご厚意により製作・懸垂されました。イベントとあわせてメディアなどにも多く取り上げられ、広く市民にこの復元運動を周知することになり、署名活動の展開に大きく弾みを付けました。



● 当会の昨年の活動実績

- 1月 8日 かわら版(第4号)発行
- 1月18日 理事懇談会
- 3月15日 理事懇談会
- 4月 7日 市長への陳情
- 4月23日 理事会
- 5月14日 理事会・通常総会・会員交流会
- 6月12日 理事・運営委員会(署名活動会議)
- 7月 9日 山口県毛利邸見学会
- 7月16日 理事・運営委員会(署名活動会議)
- 8月20日 理事・運営委員会(署名活動会議)
- 8月28日 署名活動キックオフイベント
- 9月20日 市議会との意見交換会
- 10月 3日 小田原城関係者36名来高
- 11月 2日 理事・運営委員会
- 12月 4日 秋の講演会(株)安藤・間)中村一男氏

●コラム 玉藻城のひみつ vol.4

「鯛も泳ぐ海水のお堀」

玉藻城の最大の特徴は、城郭が海に直接面していることです。被雲閣二階から北側を見やると、月見櫓越しに現高松港と瀬戸内海が眺望でき、当時の殿様達もこんな風に真近に海を眺めていたのだらうと悦に入れます。

豊臣秀吉の瀬戸内海での水軍活動の拠点としての意向が反映されたうえに、築城に関わった藤堂高虎や黒田如水の嗜好もあったのでしょうか、海から船が直接着岸できる城は、全国でも稀です。水手門は、主にお殿様専用の乗り降り場で、その傍の月見櫓は、殿が海から戻って来られるのを見ていた楼閣なので、「着見」を文字って「月見」とされています。ただ、大きな御用船が直着けできた訳ではなく、小さな渡し舟に乗り換えて着岸していたようで、水手門の辺りは今も砂浜が露出するのを見て取れます。

当時の高松港は、漁港としての西浜港、商業港として市内への各運河へ接続する東浜港、そして御用船が着く堀川港の大き3つに、着岸場所を明確に使い分けていました。現在は、水城通り(国道30号線)が通るために埋め立てられていて、海と石垣が直接には面しておらず、水城としての美しさを大きく損なってしまっ大変残念な状態です。城の南側の讃岐浜街道の4車線開通のあかつきには、水城通

りを撤去して元の姿に戻して欲しいという声も耳にするようになりましたので、遠い将来には期待ができるかも知れません。

しかし今でも、玉藻城の堀の水は外海と水門を通しちゃんと繋がっています。しかも機械で汲み上げているのではなく、武の櫓跡付近の水門を開けておけば、満干潮の力で水を自然に循環されているのです。残念ながらお堀での釣りは禁止されていますが、お堀と言えばフナかコイという既成概念があるだけに「何故お堀に鯛が？釣らないのですか？食べないの？」と観光客の方々は、真鯛や黒鯛などの大きな海水魚が優雅に泳いでいるのを見て必ず驚くポイントです。フグやボラ、黒鯛(チヌ)は海水に乗って小さい間に自然に入って来たものですが、真鯛は放流されたものだそうです。お堀の真鯛はピンクが少し黒ずんでいます。これは、もともと真鯛は深いところにいる魚なので日焼けしたという話と、本来の餌であるエビ以外を食べているから色素不足で赤みが足りないからと言われています。

お堀という閉鎖された環境にも関わらず、底が見えるほどきれいに澄んでいるのは恐らく築城以来変わっておらず古人の知恵に感嘆されます。ちなみに水門付近では、鯛に餌(有料)をやることもできます。鯛願成就とPRされており、池の鯉(こい)状態の鯛も玉藻城の見所です。(柘植)



● 高松城の復元にご賛同頂いている法人会員

(公財) 松平公益会、(宗) 石清尾八幡神社、高松市婦人団体連絡協議会、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、玉藻公園(指定管理者) 香川県造園事業協同組合、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、(公) 高松青年会議所、(株) 香川経済レポート社、香川証券、(株) 喜代美山荘、ネットヨク高松(株)、(株) 二蝶、(株) アムロン、(株) 菅組、三喜工事(株)、牟禮印刷(株)、(株) 香西工務店、高松商運(株)、久米加(株)、(株) 森造園、(株) ネクサス、四国フェリー(株)、高尾石材(株)、四国興業(株)、大塚整形外科医院、(有) 富岡建築研究所、表具師堀得感堂、(株) 安藤・間四国支店、後藤設備工業(株)、魚夏、三条山下内科医院、(株) オーディオサミット、(株) 西部広告社、(株) 優創健、小手毬、角田米穀店、湊海運(株)、(株) 西崎組

【ご協賛団体】

高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会 (順不同)

特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

(事務局) 〒760-0029 高松市丸亀町13番地2(高松丸亀町商店街振興組合内)

TEL: 087-823-0001 FAX: 087-823-0730

<http://www.takamatsujyo.jp/>

新規会員募集 【年会費】個人 2,000円(一口) 法人 10,000円(一口)

申し込みはHPのトップページ上部右横の「入会申し込み・お問い合わせ」のバナーから
また、天守閣復元署名も「署名活動」のバナーからできます